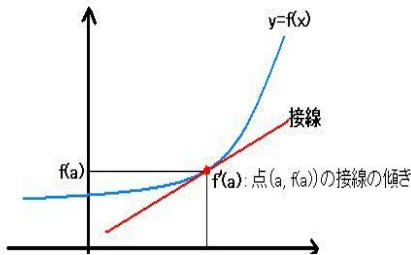


歴史—現在—瞬間 (9月のご挨拶)

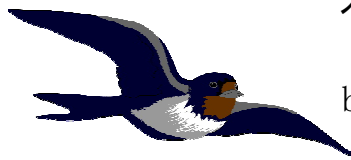


平成 28 年 9 月 1 日 (木)

9月の声を聞いても夏は未だ終わっていないと感じます。

人は、長い歴史の中の一時期に生きて、グラフのような変化の中にある。歴史の長い線はグラフの曲がった二次関数のように思える。二次曲線になるのは、人類が歴史の上で進歩を重ねているからである。人は歴史（関数）と現在（導関数）と瞬間（接線）に生きているように思う。
祇園精舎の鐘の声、、、すべてが変化している中で生きている。

木を見て森を見て変化を感じる



bird's-eye view

グラフは曲線である
(鳥が見ると曲っている)
鳥は長い歴史を見ている

$$y=x^2+x$$



$$y=2x+1$$

Worm's-eye view

グラフ上の一点(接線)は
直線になっている
(虫が見ると真っ直ぐである)
虫は平面的な現在を見ている

人が地上に居る時、地球は平面（直線）である。
しかし、宇宙（船）から見れば、地球は丸く（曲線）見える。
2次曲線 $y=x^2+x$ は、グラフ上ではカーブしているが、無限に細かく区切って見れば、その導関数 $y=2x+1$ は直線であり、**曲線上の接線は瞬間**である。

歴史の曲線は長い長い時間であり、短く短くすると日々の生活（現在）である。日々を更に細かくして行くと時間にならない短い瞬間（未来の指標）がある。その瞬間の勢いが、次の方向を決め、そして未来の歴史を創る。人は未来に生きるため、新しいものがすぐに古くなり、すべてのものがいかに早く古くなるかを理解しなければならない。
だから事業は**経済の底流の見極め**である。アマゾンのベゾスのように。